

【 主日アポリティキオン 第6調 】

てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
 天使 軍 爾 墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリアはか
 番兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
 立 爾 潔 體 尋

た ー り。なんぢはぢごくにいざなわれず
 爾 地 獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた
 地 獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきす。
 爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちた る うつわ 、 わ が く に の こう
 満 器 我 國 光

しよ お しゃ 、 あ し と し ゆ き よ う せ い ニ コ ラ イ
 照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ 、 なん ぢ の ぼ く ぐ ん の た あ め 、 お よ び
 爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い
 全 世 界 爲 生 命 賜 聖

さん しゃ に い の り た ま え 。
 三 者 祈 給

【 諸聖神父のコンダック 第8調 】

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 。
 光 榮 父 子 聖 神 歸

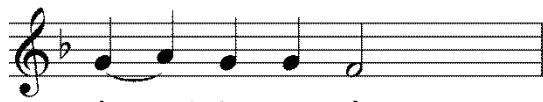
しよ し と の せん で ん と しよ し ん ぷ の て い り と は き よ う か
 諸 使 徒 宣 傳 諸 神 父 定 理 教 會

い の た め に ゆ い い つ の お し え を か た め た り 、
 爲 惟 一 教 固

か く き よ う か い は て ん じ ょ う の し ん が く が お り た る
 斯 教 會 天 上 神 学 織

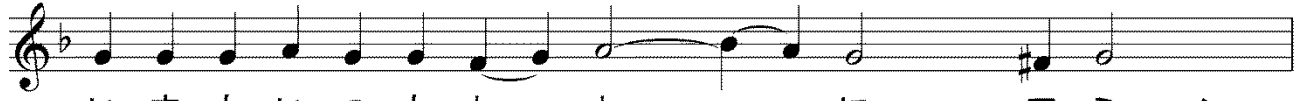
し ん じ つ の こ ろ も を き て 、 か み の お し え の
 眞 衣 衣 神 教

お お い な る お う ぎ を た だ し く と き 、 か つ
 大 奥 義 正 解 且

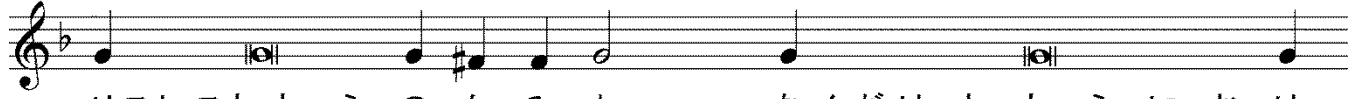


さ ん え い す 。
 讚 榮

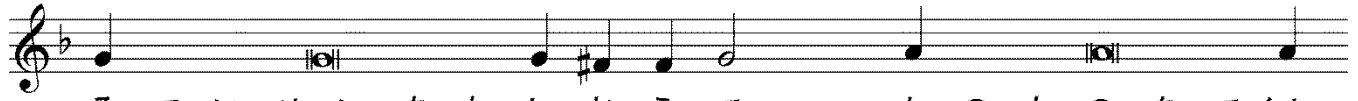
【 升天祭のコンダック 第6調 】



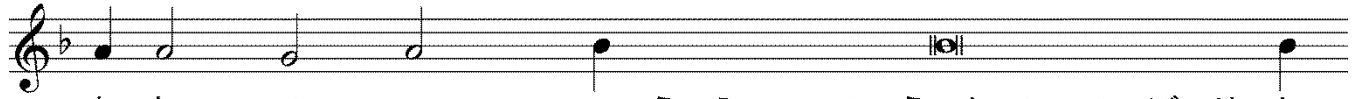
い ま も い つ も よ よ 世 世 に 、 ア ミ ン。
 今 何 時 世 世



ハリス ト ス わ れ ら の か み よ 、 な ん ぢ は わ れ ら に お け
 我 等 神 爾 我 等 於



る て い せ い を な し お え て 、 ち の も の を て ん に
 定 制 爲 畢 地 者 天



あ わ せ て 、 こ う え い の う ち に の ぼ り た
 合 光 榮 中 升



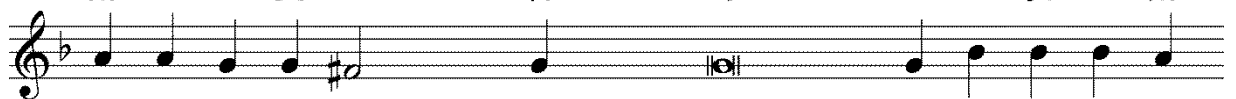
れ ど も 、 い づ こ よ り も は な れ ざ り き 、
 何 處 離



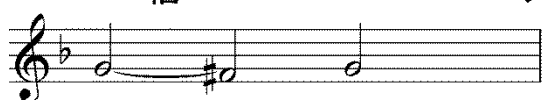
す な わ ち わ か る る な く と ど ま り て 、
 乃 別 留



な ん ぢ を あ い す る も の に よ ぶ 、 わ れ な ん ぢ ら 等
 爾 愛 者 呼 我 爾 等



と と も に す 、 ひ と の な ん ぢ ら に て き す る
 偕 人 爾 等 敵



な し

代禱) ^{よよ} 世世に、



ア ミ ン。

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅 、 聖 なる

じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 の 者 我 等 を 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅 、 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 の 者 我 等 を 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 憐 め よ 。 光 榮 は 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世 に 、 ア ミ ン。

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 憐 め よ 。 聖 なる 神 、 聖 なる 勇

き 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を
 毅 、 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を

あ わ れ め よ 。
 憐 め め よ 。

【 提綱に代えて諸祖の歌 第4調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅわ} プロキメン、 ^{せんぞ} 主我が先祖の神よ、 ^{かみ} ^{なんぢ} 爾は讚揚せられ、 ^{さんよう} ^{なんぢ} 爾の名は世々に ^な ^{よよ} 讚美讚榮 ^{さんびさんえい} せら

る、



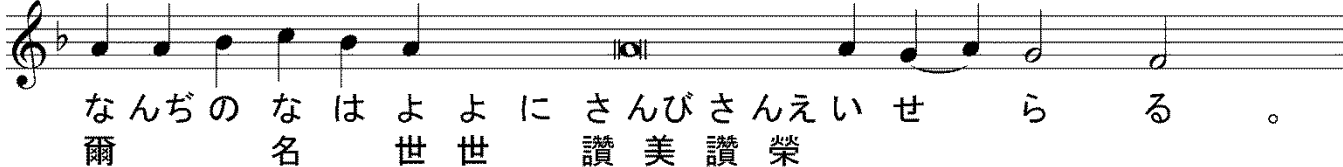
しゅわがせんぞのかみよ、なんぢはさんようせ
主我先祖神 爾 讚 揚
られ、なんぢのなはよよにさんびさんえいせ
爾 名 世 世 讚 美 讚 榮
らる。

誦經) ^{けだしなんぢ} 蓋 爾は凡そ我等に行いし事 ^{およ} ^{われら} ^{おこな} ^{こと} ^{おい} ^ぎ に於て義なり。



しゅわがせんぞのかみよ、なんぢはさんようせ
主我先祖神 爾 讚 揚
られ、なんぢのなはよよにさんびさんえいせ
爾 名 世 世 讚 美 讚 榮
らる。

誦經) ^{しゅわ} 主我が先祖の神よ、 ^{せんぞ} ^{かみ} ^{なんぢ} 爾は讚揚せられ、 ^{さんよう}



なんぢのなはよよにさんびさんえいせらる。
爾 名 世 世 讚 美 讚 榮

【 使徒經 (アポストロス) 44 端 聖使徒行實 20 章 16 節~18 節、28 節~36 節 】代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしとこうじつ} 聖使徒行實の讀、 ^{よみ}

代禱) ^{つつし} 謹みて聽くべし、 ^き

誦經) ^か 彼の曰パヴェルは ^{しゅうこう} 舟行して、エフェスを過ぎんと ^す ^{さだ} 定めたり、アジアに ^{ひさ} 久しく ^{とど} 留まらざらん ^{ため} 爲な

^{かれよく} り、^{ごじゅんせつ ひ} 彼 能 ず べ く ば、^{あ ほっ} 五 旬 節 の 日 に イ エ ル サ リ ム に 在 ら ん と 欲 し た れ ば な り。^{かれ} 彼 は ミ リ ト よ り
^{ひと つかわ} エ フ ェ ス に 人 を 遣 して、^{きょうかい ちょうろうら め} 教 會 の 長 老 等 を 召 し たり。^{かれら きた} 彼 等 が 來 り し 時、^{とき これ い} 之 に 謂 え り、^{なんじ} 爾
^{ら みづか} 等 自 ら 慎 み、^{またぜんぐん つつし} 亦 全 群 を 慎 め、^{すなわちせいしんなんじら} 乃 聖 神 爾 等 を 其 中 に 立 て て、^{そのうち た} 監 督 と 爲 し、^{かんとく な} 主 神
^{おのれ} が 己 の 血 を 以 て 獲 た る 教 會 を 牧 せ し む。^{けだしわれし わ} 蓋 我 知 る、^{のち ざんにん} 我 が 去 り し 後、^{おおかみ} 殘 忍 なる 狼、^{むれ} 群
^{おし} を 惜 ま ざ る 者 は、^{もの なんじら} 爾 等 の 中 に 入 ら ぬ、^{なんじら} 爾 等 の 中 よ り も 人 人 起 り て、^{ひとひと} 人 人 起 り て、^{おこ} 門 徒 を 誘 い、^{もんと いぎな} 己
^{したが} に 從 わ し め ん 爲 に、^{ため り} 理 に 悖 る 事 を 語 ら ぬ。^{もと} 故 に 徹 醒 して、^{こと} 我 が 三 年 間 晝 夜 斷 え ず、^{かた} 涙
^{もつ} を 以 て 爾 等 各 人 を 誨 え し を 憶 え。^{なんじら} 兄 弟 よ、^{おし} 今 我 爾 等 を 神 及 び 其 恩 寵 の 言、^{おも}
^{なんじら} 爾 等 を 建 て、^た 爾 等 に 凡 の 聖 せ ら れ し 者 の 中 に 嗣 業 を 與 う る を 能 す る 者 に 託 す。人
^{きんぎんいふく} の 金 銀 衣 服 は、^{われいま} 我 未 だ 之 を 貪 ら ざ り き。^{これ むさぼ} 爾 等 自 ら 知 る、^{なんじらみづか} 此 の 我 が 手 は 我 及 び 我 と 偕
^あ に 在 り し 者 の 需 に 供 せ し を。^{もの} 凡 の 事 に 於 て 我 爾 等 に 斯 く 勞 して、^{うち} 柔 弱 者 を 扶 け、^{しぎょう} 且
^{しゅ} 主 イ エ ス の 言 を 憶 う 可 き を 示 せ り、^{ことば} 蓋 彼 自 ら 云 え り、^{おも} 與 う る は 受 くる よ り も 更 に
^{さいわい} 福 な り と。^い 言 い 竟 り て、^{おわ} 彼 膝 を 屈 め て、^{かれひざ} 衆 と 偕 に 禱 れ り。^{かが}

(比較用 口語訳) その日、パウロがアジアで時間をとられないため、エペソには寄らないで続航することに決めていた。彼は、できればペンテコステの日には、エルサレムに着いていたかったので、旅を急いだわけである。そこでパウロは、ミレトからエペソに使をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。そして、彼のところに寄り集まってきた時、彼らに言った。どうか、あなたがた自身に気をつけ、また、すべての群れに気をくばっていただきたい。聖霊は、神が御子の血であがない取られた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである。わたしが去った後、狂暴なおおかみが、あなたがたの中には入り込んで、容赦なく群れを荒すようになることを、わたしは知っている。また、あなたがた自身の中からも、いろいろ曲ったことを言って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起るであろう。だから、目をさましていなさい。そして、わたしが三年の間、夜も昼も涙をもって、あなたがたひとりびとりを絶えずさとしてきたことを、忘れないでほしい。今わたしは、主とその恵みの言とに、あなたがたをゆだねる。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別されたすべての人々と共に、御国をつがせる力がある。わたしは、人の金や銀や衣服をほしがったことはない。あなたがた自身が知っているとおりに、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである」。こう言って、パウロは一同と共にひざまずいて祈った。

代禱 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第1調 】

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{しょしん} 諸神の ^{かみしゅ} 神主は ^{ことば} 言を出して ^{いだ} 地を ^{ちめ} 召す、^{ひい} 日の ^{ところ} 出づる ^{ひい} 處より ^{ところ} 日の ^{いた} 入る ^{いた} 處に至る。

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{われ} 我の ^{せいしゃ} 聖者、^{まつり} 祭を ^{もつ} 以て ^{われ} 我と ^{やく} 約を ^{むす} 結びし ^{もの} 者を ^わ 我が ^{まえ} 前に ^{あつ} 集めよ。

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) イオアン福音書 56 端 17 章 1~13 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{でん} イオアン傳の ^{せいふくいんけい} 聖福音經の ^{よみ} 讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮
はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし} 謹 ^き みて ^き 聽くべし、

誦經) 彼の時イイス 其目を天に擧げて曰えり、父よ、時 至れり、爾 の子を榮せよ、爾 の子
 も 爾 を榮せん爲なり、蓋 爾 は彼に 凡 の肉體の上の權を與えたり、彼が凡そ 爾
 の彼に與えし者に永 遠の生命を與えん爲なり。永 遠の生命とは、 即 爾 、獨一の
 眞 の神、及び 爾 が遣 ししイイス ハリストスを知ること是なり。我 已に 爾 を地に
 榮し、 爾 が我に與えて 行 わしむる事を成せり。今 爾 父よ、我をして 爾 に在りて榮
 を享けしめよ、 即 創世の先に我が 爾 に在りて有ちたる榮なり。 爾 が世の中より我に
 與えし人人に、我 爾 の名を 顯 せり、彼等は 爾 に屬し、 爾 彼等を我に與えたり、
 彼等 爾 の言 を守れり。今 彼等は凡そ 爾 が我に與えし者、皆 爾 よりするを知れり、
 蓋 我は 爾 が我に與えし 言 を彼等に與えたり、彼等之を受け、且 我が 爾 より出で
 しを 誠 に知り、亦 爾 が我を 遣 ししを信ぜり。我は彼等の爲に祈る、世の爲に祈ら
 ず、 乃 爾 が我に與えし者の爲なり、蓋 彼等は 爾 に屬す。凡そ我に屬する者は
 爾 に屬し、 爾 に屬する者は我に屬す。我は彼等の中に榮せられたり。我は是より世
 に在らず、彼等は世に在り、我 爾 に往く、聖なる父よ、 爾 が我に與えし者は、 爾 の名
 に因りて之を守りて、彼等を我等の如く一と爲らしめよ。我 彼等と 偕に世に在りし時、
 爾 の名に因りて彼等を守れり、 爾 が我に與えし者は、我 之を守り、其中 一 も亡び
 ず、惟 沈 淪の子は亡びたり、聖 書 の應 うを致す。今 我 爾 に往く、我世に在りて之を言
 う、彼等が 己 の内に我の 全 き 喜 を有たん爲なり。

(比較用 口語訳) その時イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなた
 の栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。あなたは、子に賜わったすべての者に、永
 遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。永遠の命とは、唯一
 の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであり
 ます。わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあら
 わしました。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせ
 して下さい。わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らは
 あなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。い
 ま彼らは、わたしに賜わったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。なぜなら、
 わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出た
 ものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからで

す。わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るの、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 き 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。
 爾 歸 す。

※代式祈祷③ へ